

□講義科目（基礎科目）

科目名	研究方法概論	2単位
担当者	末盛 慶	
テーマ	研究を行う上で必要となる調査方法について理解を深める。	
開講形態	全回ハイブリッド形式	
科目のねらい	<p><キーワード> 研究方法 質的方法 量的方法 研究課題 仮説</p> <p><内容の要約></p> <p>本講義では、研究を行う上で必要となる研究方法を学ぶ。質的方法と量的方法の双方を扱う。質的方法に関しては、質的方法の特徴、質的研究における研究課題の定め方、データ収集の仕方、質的データの分析方法、質的分析の結果の示し方について解説する。量的方法に関しては、調査デザインの実施方法、質問紙の作り方、対象者の抽出方法、調査の実施方法、データの作成と分析方法を学ぶ。SPSSを用いた分析演習も複数回行う(※一部の回を一般公開する場合があります)。</p> <p><学習目標></p> <p>①質的および量的方法の概要を説明できる。②質的および量的データのとり方を説明できる。 ③質的および量的データの分析の仕方を説明できる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 研究方法－質的方法と量的方法</p> <p>第2回 質的方法の概要</p> <p>第3回 質的データの取り方Ⅰ－インタビュー法</p> <p>第4回 質的データの取り方Ⅱ－観察法・エスノグラフィー</p> <p>第5回 質的データの分析法Ⅰ－グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTAを含む)</p> <p>第5回 質的データの分析法Ⅰ－その他の質的分析法</p> <p>第7回 質的データ分析の結果の示し方</p> <p>第8回 量的方法の概要</p> <p>第9回 質問紙の作成・配布・回収</p> <p>第10回 データ入力と基本集計</p> <p>第11回 SPSSを用いた量的分析Ⅰ－単純集計と変数の再構成の仕方</p> <p>第12回 SPSSを用いた量的分析Ⅱ－クロス集計とカイニ乗検定</p> <p>第13回 SPSSを用いた量的分析Ⅲ－平均値の比較に関する分析</p> <p>第14回 SPSSを用いた量的分析Ⅳ－相関分析と回帰分析</p> <p>第15回 混合研究法</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	以下の参考文献のうち、中島洋『初学者のための質的研究 26の教え』と、須藤康介・古市憲寿他『新版文系でもわかる統計分析』を読みながら、本講義を受講すること。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法	
テキスト	テキストは用いません。毎回レジュメを配布し、講義と演習を行います。	
参考文献	<p>岩田正美・中谷陽明他『社会福祉研究法』有斐閣 2006年</p> <p>上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書 2018年</p> <p>木下康仁『ライブ講義 M-GTA』弘文堂 2007年</p> <p>グラハム・R・ギブズ『質的データの分析』新曜社 2017年</p> <p>向後千春・富永敦子『統計学がわかる』技術評論社 2007年</p> <p>戈木クレイグヒル滋子『質的研究方法ゼミナール(増補版)』医学書院 2008年</p> <p>佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社 2008年</p> <p>須藤康介・古市憲寿・本田由紀『新版文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版 2018年</p> <p>高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 1979年</p> <p>中島洋『初学者のための質的研究 26の教え』医学書院 2015年</p> <p>パンチ,K.F.『社会調査入門:量的調査と質的調査の活用』慶応義塾大学出版会 2005年</p> <p>村瀬 洋一・高田 洋他『SPSSによる多変量解析』オーム社 2007年</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート(50点)、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出(50点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	